

決定！

第23回盛岡市民演劇賞

【大賞】 該当なし

【部門賞】

●創作戯曲部門

角館 信哉(ライナー・ノート)

《受賞理由》

ライナー・ノート「けして、パレードは続けども。」(令和6年9月14日、16日、盛岡劇場 タウンホール)、「まだここで息をして」(令和7年5月10日、11日、盛岡劇場 タウンホール)の2作品において、リアリティのある会話で作者の内面を伺わせるまでに人間関係のずれを丁寧に描いた両作は、テーマの共通性とともに、観客を物語の世界に引き込む作品となった。

●演出部門

遠藤 雄史(トラブルカフェシアター)

《受賞理由》

トラブルカフェシアター「杜鵑の棲む家」(令和6年11月3日、4日、9日、10日、旧石井県令邸)において、歴史的建造物の重厚な空間を活かし、登場人物それぞれの背景や思惑のストーリー展開により、終始緊張感に満ちあふれた舞台を表現した。

●舞台美術部門

中村 輝(カンザスハリケーン)

《受賞理由》

カンザスハリケーン「青嵐」(令和7年3月22日、23日、盛岡劇場 タウンホール)において、客席を含めタウンホール全体を舞台化し、さらに見えな

い奥までをも感じさせる空間構成は、異世界を現世に体感させるほどの力があつた。

●音響・音楽部門

村岡 邦子(劇団赤い風)

高井 翼

《受賞理由》

もりげき八時の芝居小屋第191回公演・もりおかアキシオンクラブプロデュース「ジュリアス・シーザー the ACT」(令和7年2月27日、28日、盛岡劇場 タウンホール)、劇団赤い風公演「犬神」(令和7年5月10日、11日、いわてアートサポートセンター 風のスタジオ)の2作品において、音響音楽が物語に果たした役割は大きく、その場面にふさわしい多くの曲を作り上げたことも注目され、その効果は物語に奥行きを与えた。

●衣装・メイク部門

染井 野花(カンザスハリケーン)

藤原 悦子(劇団よしこ)

《受賞理由》

カンザスハリケーン「青嵐」(令和7年3月22日、23日、盛岡劇場 タウンホール)において、絢爛な衣装が物語に引き込む役割を果たし、奇抜なメイクも演技の力強さと凄みを増しており、美意識も感じられた。

●観客賞

劇団ちりぢり「舞浜騒乱事件」

(代表 藤原 瑞基)

令和6年9月22日、23日

盛岡劇場 タウンホール

第23回盛岡市民演劇賞授賞式



まず初めに、受賞された方々、おめでとうございます。お祝い申し上げます。

それでは審査会の経過を述べさせていただきます。本年7月18日・金曜日の午後6時より、休憩を入れ3時間余り、河南公民館の会議室において、盛岡市文化振興事業団事務局同席のもとに、審査委員7名（8名でしたが長らく審査にあたっていた穀蔵力委員は退任）にて、審査会を行いました。

今年度、第23回盛岡市民演劇賞の審査対象となりました公演は33公演ありました。前年度は30公演でしたので、3公演の増加です。活動のより活発な年度となりましたことは、喜ばしいことでした。

審査会は2月にも会合を持ち、上半期分の中間情報交換を行っており、それも踏まえまして、例年どおり1年間通しての対象作品の中から、各委員に3作品ずつ挙げてもらいました。それ以外にも話題にのぼった舞台を加えまして、検討された作品は、次のとおりです。

《主に話題になった舞台作品》

（公演月日順）

○劇団ゼミナール

「TENYA-WANYA」

○ライナー・ノーツ

「けして、パレードは続けども。」

○劇団ちりぢり「舞浜騒乱事件」

○架空の劇団

「白い象のあばかりぶす」

○ボーイズドレッシング

「全員入れますか」

○トラブルカフェシアター

「杜鵑の棲む家」

○劇団もりのべる

「願い」を君に」

○劇団・風紀委員会「雨女」

○もりげき八時の芝居小屋第189回公演

八時の芝居小屋制作委員会

プロデュース「蒔くしたてる」

○もりげき八時の芝居小屋第191回公演

もりおかアクションクラブ

プロデュース

「ジュリアス・シーザー」

the ACT

○もりげき八時の芝居小屋第192回公演

八時の芝居小屋制作委員会

プロデュース

「なんだりかんだりよみがたり」

○カンザスハリケーン「青嵐」

○着ぐるみのドレープ

「パフォーマンスアート」

「1匹のウサギへ贈る組曲」

○劇団赤い風「犬神」

○ライナー・ノーツ

「まだ」ここで息をして」

○寺山修司演劇祭実行委員会

「お月さまが消える夢」

* * *

以上、16作品に対して、委員推薦

の重なった作品を主に、併せて、寄せられた観客賞投票者の推薦理由も参考にして、意見交換を行いました。

年度によっては、大賞、部門ともに半数を超える委員推薦を得た作品が複数ある場合は、順調に決まっていくなかにもありますが、今年度は、そのようなことがなく、16作品も話題にのぼりましたので、意見調整に努めることとなりました。複数の推薦を得た作品についても再三検討を尽くしてまいりました。

そのような過程を経まして、各委員の同意を得つつ、部門それぞれ該当の授賞作決定に到りました。

* * *

【大賞】
該当なし

審査対象の内、委員の推薦を集めた舞台は5舞台ありました。

ライナー・ノーツの「けして、パレードは続けども。」と「まだ」ここで息をして」の2舞台。それと、ボーイズドレッシングの「全員入れますか」並びにトラブルカフェシアターの「杜鵑の棲む家」とカンザスハリケーンの「青嵐」の5舞台です。どの舞台も大賞候補として検討いたしました。再度の協議にわたっても評価は、ほぼ均衡にあつて、1舞台に絞り切ることがかなわず、話し合いの末、本年度該当なしということになりました。うち4舞

台については部門賞に反映されませんが、5舞台ともに大賞候補作品ととらえていただければ幸いに思います。

* * *

【部門賞】

○創作戯曲部門

角館 信哉（ライナー・ノーツ）

「けして、パレードは続けども。」

（令和6年9月14日～16日、

盛岡劇場タウンホール）

「まだ」ここで息をして」

（令和7年5月10日～11日

盛岡劇場タウンホール）

角館さんは昨年度と連続の授賞です。今までの作品の内容を通して見てゆきますと、他者と自己の関係に不調和感とか喪失感とかそういうようなものがあるように思います。内部に抱えきれない、そのことが戯曲を書き継ぐ原動力になっているのか、そのように思います。その個人的な自分だけが分かっていることを他人にも分かるように描いた、そのことが共鳴を呼んだと、説明ではなく戯曲という客体化の力を評価しました。

* * *

○演出部門

遠藤 雄史

（トラブルカフェシアター）

「杜鵑の棲む家」

（令和6年11月3日～4日・

9日～10日 旧石井県令邸）

遠藤さんは昨年の創作戯曲部門に
続いての授賞です。赤と緑のチーム
ふたつ、それぞれ10人が出演する舞
台は同じ脚本でありながら別々の舞
台といえるものでした。旧石井県令
邸を舞台の場としたのも演出のうち
でしょう。10人ものキャストの息を
ひとつにした、緩みのない演技の持
続は演出の力であると、評価されま
した。

○舞台美術部門

中村 輝(カンザスハリケーン)

「青嵐」

(令和7年3月22日～23日、
盛岡劇場 タウンホール)

中村さんは第18回の時にも同賞を
授賞して2回目となります。客席を
三つに分け、その間を演技者が通る
通路とし、左壁際に演技台を設け、
正面の階段奥になお奥があるような
しつらえの、タウンホール全体を舞
台にしたような空間構成は、客席を
その内に容れて、物の怪の異界体感
に大いに寄与していたと評価されま
した。

○音響・音楽部門

村岡 邦子(劇団赤い風)

高井 翼

「ジュリアス・シーザー」

the ACT

(八芝191回公演もありおか

アクションクラブプロデュース)
(令和7年2月27日～28日
盛岡劇場 タウンホール)
「犬神」(劇団赤い風)
(令和7年5月10日～11日
いわてアートサポートセンター
風のスタジオ)

村岡さんと高井さんはふたつの舞
台で、一緒に担当されました。音
響・音楽というのは、台詞よりもは
るかに直接に情緒に訴えてくるもの
で、寺山修司の舞台にはとりわけそ
の効果が期待されるのですが、それ
によく応えていたと評価を得まし
た。またジュリアス・シーザーの劇
中楽曲の多さも注目され、おふたり
に音響・音楽部門賞を贈ることとし
ました。

○衣装・メイク部門

染井 野花

(カンザスハリケーン)

藤原 悦子(劇団よしこ)

「青嵐」

(カンザスハリケーン)

(令和7年3月22日～23日
盛岡劇場 タウンホール)

衣装・メイクは舞台内容に影響を
及ぼしますが、これほどのことはこ
れまでなかったのではと思わせた衣
装・メイクでした。衣装はきらびや
かに輝いて、その上に量感があり、
奇抜なメイクは眼にも及んでいて、

しかも美がありました。登場人物7
人は衣装もメイクも異なっていて、
それがそれぞれを性格づけ、それぞ
れの演技を際立たせ、人間界ではな
い異界の物の怪の雰囲気がよく表わ
れていました。評価は高く、染井さ
ん、藤原さんのおふたりに衣装・メ
イク部門賞を贈ることとしました。

【観客賞】

劇団ちりぢり「舞浜騒乱事件」

(令和6年9月22日～23日
盛岡劇場 タウンホール)

最低投票数20票以上、かつ有効投
票数の2割以上という要件を満たし
て、観客賞は成立しました。2年ぶ
りです。有効投票総数は30票あり、
うち7票を得て最多でした。劇団ち
りぢりは観客賞が設けられた第1回
目と今回で2回授賞という快挙で
す。同じく要件を満たした次席は6
票を得たトラブルカフェシアターの
「杜鵑の棲む家」でした。

観客賞は審査会とは別の独立した
賞です。観客賞を設けてから今年は
8回目となりますが、うち4回は不
成立でした。コロナ禍のさなかには公
演数も減少していましたから、その
影響もあつたかと思えます。投票者
は5作品以上観劇していることな
ど、要件のハードルが高いのかなと
思ったりもしていましたが、今年度
は成立し、嬉しいことでした。演劇

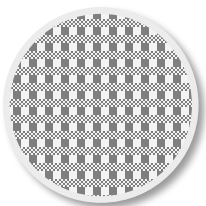
賞実施要綱に、投票者の推薦理由を
大賞、部門賞審査の参考とする、と
明記されていますので、審査会とし
ても大いに注目しているところだ
す。今年度にも増して来年の投票数
の多いことを期待しています。
投票結果の詳細は、盛岡劇場ホー
ムページをご覧ください。

さて終りになりますが、皆様の日
頃の活動に対して敬意を表しますと
ともに、今後の1年、どんな舞台が
観られるか、楽しみにしております。

もう一度、今日の皆様に、受賞の
お祝いを申し上げます、講評を終
わります。ありがとうございます。

令和7年7月31日(木)

盛岡劇場メインホールにて



犬神

劇団赤い風第86回公演

作／寺山修司 演出／永井志穂

わからなくてもおもしろがっている **劇評** 猿橋勇人

上演後、外で今風のタバコを嗜んでいたところ、「劇評を書きませんか？」と声をかけられ二つ返事で「書きましょう」と答えてしまったので、劇評を書いてみたいと思う。二つ返事は言い過ぎた、ちよっと迷ったので「二つ半返事」に訂正する。

ということとで劇団赤い風「犬神」、観てきました。寺山修司作品

は両手で数えられるくらいしか観たことがないし、寺山修司がどのような人物なのかよく分かっていない。私がつイメージとしては、「生きづらさをあらゆる方法を尽くしてこねてこねてこねくりまわして表現している人」：そんな感じだ。あ、映像作品の「消しゴム」はなかなか記憶に残っている。「なんだこりや、何をどうすればこんなアイデア出てくるんだ、でもまあ、よく分かんないけどおもしろいなー」って思った。で、舞台作品については、「寺山修司自身の生きづらさをカナナ使って汗かきながら削って削って作った生きづらさの削り節を業務用巨大扇風機あるいはブローワで客席に吹き飛ばすようなエネルギーが舞台に充満するような作品」というイメージがある。今回の作品も「しあわせがこわい」的なことを劇中で言っちゃってるものだから、「いやいや、しあわせならいいじゃん、今あるしあわせを味わったらいいいじゃんか」って思ってしまうのだけど、きつと、「しあわせの先にある不幸に似た得体の知れない何か」を恐れていたのかなとか、「しあわせという非日常な感情のあと、平穏な日常に戻ったときの日常」にあるさみしさとか、気持ちにぽっかり穴が開いた感じがイヤだったのかなとか、そ

んなことを考えていた。しあわせの先に必ず不幸が来るなんてことないし、平穏な日常があるからしあわせを感じられるのに、自分から不幸に突っ込んでどうすんのって、そういう点では月雄かわいそうだなーって思う反面、「何やってんだよ月雄」ってことも思う、月雄の「しあわせこわい物語」に姑もあの犬も付き合われていたんだとしたら、「おい月雄ー」って、なおさら。まあ、分からなくはないけど、ないけどさ、月雄ーって。

寺山修司の作品って、字面で読んだことはないのだけど、これまでの上演を観た限りでは「これ形にするの大変だろうなー」って思っている。「このレシビ再現できるの？」みたいな。まあ、大変じゃない作品なんてないんだろうけど。なんかこう、「君たちはどう作るか」みたいな、「どんなふうに形にしてくれるんだい？」という寺山修司からの挑戦状に対して、令和七年になってもなお挑み続ける劇団のごみと、寺山修司作品のすごみ、どちらも感じられた時間だったと感じました。

そして、「君たちはどう私を驚かせてくれるんだい？」ということも、寺山修司から問われているような気がする。「私の作品を愛してく

れていることは十分伝わった、その上で、君たちの頭と身体で作り上げた新しい作品は、私の書いた作品のように長く愛してもらえるのかい？」そんな作品を作れるのかい？」という、もうひとつの挑戦状も、今を生きる表現者は受け取らなければならぬのかなど、挑み続けなければならぬのかなと、そんなことを思いながら上演後、今風のタバコを嗜んでいたところ、「劇評を書きませんか？」と声をかけられ二つ返事で「書きましょう」と答えてしまったので、劇評を書いてみたいと思う。

二つ返事は言い過ぎた、ちよっと迷ったので「二つ半返事」に訂正する。

そして、「全然そんなこと思っていないよ」って寺山修司から言われたら、「ごめんなさい」って謝ります。

寺山さん、あなたの作品、よく分かんないところもあるけど、おもしろくて好きです。

よく分かんないけどおもしろいって、すごくすごいことですよ。

令和7年5月10日(土)17時の回
いわてアートサポートセンター

風のスタジオ

「二十四世紀カラオケトリップ倶楽部」

これから光が包み込む

劇評

ササキサキ

作・演出／荒川颯音

まず、この芝居を「高校生が作った」という括りで考える客がいるなら恥ずべきだと私は思う。

そして、この芝居を何らかの事情で見れなかったのなら一つ、よい芝居に巡り合う機会を失ったと思った方がよい。

正直に言うならば主宰、荒川颯音氏の才能と、これだけのエネルギーを持った芝居を作る人脈に嫉妬している。

舞台は2024年の地方都市の大通り。大手カラオケチェーンにより追いやられた寂れたカラオケ屋。

「24日の24時に224号室で224点を取るとタイムスリップが出来る」という噂を聞き、20〜27歳の若者が集まる。彼女らは今はなき「マリーさん」なる思い出の人を探し久保田利伸『L A L A L A LOVE SONG』を歌い続ける。

演出効果、映像効果など如何にも都会の小劇場的演出が多く、テンポの良いシーンが、カラオケのネオン色に照らされる空間は美しかった。

しかし、演者と役の年齢のミス

マッチ、出力のが滞る瞬間などが節々の「え、なんで？」繋がってしまつたように思う。無理に年齢を上げる必要を私はあまり感じない。（一部必要のあつた役もあるが）

劇団として今の若者の武器であるSNSの活用が非常に巧みだ。公演の応援チケットによる購入者への返礼品も、彼女らの多彩な「クリエイティブセンス」による強みだろう。

なんと冷蔵庫ポルカ、2025年の9月には東京で公演も行うらしい。

最後にはなるがこういう若く、縛られるものが少ない才能のある団体には、地方に縛られずにどんどん外へ出て活躍して欲しい。どこにでも行けるし、なんでもやれる。やり切った先に原点が光ものだと思っている。

旗揚げを祝して。

令和7年3月8日(土)18時の回

いわてアートサポートセンター

風のスタジオ

県内劇団短信

劇団地底人(二戸市)

岩手県北の二戸地域を中心に活動しております、演劇プロデュースチーム『劇団地底人(団体名)』と申します。演劇の好きな人『劇団地底人(筆名)』が主宰となり「歴史モノや童話・ファンタジーばかりじゃなく、もっといろいろ演ろうよ!」ということで、2023年に発足しました。現在は主に主宰の書いた作品の公演を企画・制作・上演することを目的としており、2023年には一戸町コミュニティセンターで現代劇を、2024年には国登録有形文化財である萬代館で、地域をテーマにした作品を上演するなど、その活動範囲を広げています。公演の無い時期でも、戯曲や文学を読む『本読み会』を定期的で開催したり、ワークショップを企画したりしています。

二戸地域内外から「演劇・舞台の好きな人たち」が、わいわいと(時にがやがやと)集まり、ゆるゆると(時に真剣に)、楽しく活動しています。カシオペア市民劇場(旧二戸市民文士劇)やアーツライブにのへ、二戸演劇協会雲人、ポテトサラダ委員会など、様々な「演劇・舞台の好きな人たち」と手を取り合いながら、演劇ムーブメントを繰り広げています。

次回公演は2026年2月を予定しています。地底に集う人々の爆発的なエネルギーを是非、存分に浴びに来て頂ければと思います。



岩手県立大学劇団ちゃねる卒業公演

「半分卒業しません」

作・演出／菅原 彩華

冒険の途中 劇評 本紙編集委員 八木絵里

遅すぎる劇評ですみません。熱量と個性とやる気に満ち溢れた卒業公演。初めに言っておきますが、辛めのこと書いています。本気には本気で返したい。

本題に入る前に記しておきたい。この代界隈のちゃねるは、情報宣伝がうまい。観客の情報収集のほとんどがSNSによるこの時代、盛岡だけではなくプロの劇団さえも発信に苦慮しているように思える。X(旧Twitter)を定期的に更新し続け、日々の稽古を何とはなしに発信するでもなく、きっちり企画して見やすいように文字構成を行いUPし続けることにちゃんとエネルギーを割いている。noteに掲載されたインタビュの濃度、画像の美しさには目を見張るものがあつた。劇

場に足を運んでみたいと思わせる内容は他劇団も見習うべき。自戒もこめて。そして、置きチラシの量もすごい。どこに行っても見かける。ネットとリアル、両方からの抜かりのない情報宣伝力は間違いなく、盛岡で右に出る団体はひとつもない。長々とすみません、でも大事な

ことなので書かせてください。演劇は、人に観られてナンボである。良い作品を創ることとほぼ同列に観客を呼ぶことは重要であると考え。いかに「観客になるかもしれない人々」に本番までの期間、質の良いアプローチをかけ続けられるかの点、ちゃねるは本当にすごい。

短編

『アナタはその壺を信じますか?』

宇宙一の雨男に花火を見せるための奔走を描くコメディ。卒業年度の学年が1年生だった頃の外部公演「はるばる」でもコメディの才能の片鱗を見せてくれた作・演出の菅原彩華は、常に枠にとらわれず、観客の予想を軽やかに超えてくる。決して細やかとは言えないが、思わず笑ってしまう。ただ面白そうなものを並べているように見えて、決してそうではない。コメディを成立させる力を感じるの、世界の“どうでもよさ”と“どうでもよくなさ”を同時に見つめているからだ。マッドサイエンティスト芸家、モブとして記載された無表情レタスタ

ちの存在感も抜群。自由さと発想の豊かさが、演劇の楽しさを改めて思い出させてくれる作品。タイトルはもう少し考えても良かったのでは?

長編『ノーエンド・デッドモール』

まず、大前提として私は劇作家・渡邊愛実の作品が好きだ。言葉の選び方に繊細さと芯の強さがあつて、ふとした瞬間に胸を突かれる事もある。何というか、言葉の奥にちゃんと体温が宿っている感覚があるのだ。チラシを初めて見た時、これは見逃せないぞと震えた。以下、チラシ引用。「経営が傾き入居テナントの少ないショッピングモールには行くあてのない者たちが居場所と刺激を求めて集まる。なんにも知らないけどなんにもわからないけどなんにもできないけど!それでも!わたしは、お前と、ここで!」めちゃくちゃ面白そう。客演先の本番日が重なるピンチを乗り越えながら、私は風スタに向かった。

本編はさてどうだろう、チラシが放った最初の衝撃を越えきれなかったというのが正直なところ。私の期待が大き過ぎたのも要因のひとつ。期待値を爆上げしてくれたチラシのコピー、デザインが良かっただけに勿体なかった!舞台上の役者たちは火の玉のように燃え、ガラガラとしたエネルギーでぶつかっていた。それは間違いなく本気の熱量だったけれど、疾走する車に一步乗り遅れ

てしまったような感覚だった。これまでの渡邊作品とは大きくテイストが異なり、大胆に舵を切っていた。アクセルを思いきり踏んだ挑戦。そこには「おもしろい女になりたい」という彼女の気概が確かにあつた。ちゃねるのこの代(と卒業公演に関わっていた)のメンバーには特別な存在感があり、非常に魅力的だ。だからこそ、もっともつと届いてほしいかったという思いもある。ある意味実験的な作品であり、集大成の卒業公演と言えたかというところ。これが「卒業」ではなく、通過点になることを信じている。

役者陣の層が厚かつたのも印象的。山本あかり氏の透明感、フラットさ、役者としてのしなやかさは抜群。数年前のちゃねる作品『おどしね』で観た時から良い!と思った藤井彩矢氏はやはり良かった。不思議なシニールさと、普通っぽさの中に見え隠れする静かな狂気。卒業年次以外では熊谷煌明氏がスマッシュヒット。

それぞれのステージでの創作の旅は、まだ続いていく。その先にまた、心を揺らすような作品を創る皆さんに出会えるのを楽しみにしています。

また劇場でお会いしましょう。

令和7年1月13日(月)13時の回
いわてアートサポートセンター
風のスタジオ

月	日	開演	公演団体／公演名	会場	チケット	問合せ先
9	6 (土)	14:00	*令和7年度 岩手県立大学演劇部	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売一般 1,500円	制作 ✉gekidan.channel@gmail.com
		19:00	劇団ちゃねる 夏公演		学生 1,000円	
	7 (日)	11:00	「ちゃねれんじ!!」		当日各300円増	
	13(土)	14:00	架空の劇団第28回公演	あえりあ遠野 中ホール	一般前売 1,800円	倉持 ☎090-1933-5980
	14(日)	11:00	「スケッチブック 一供養絵をめぐる物語ー」		当日 2,300円 ペア(Webのみ)3,000円 大学生(前売・当日共)1,000円 高校生以下(前売・当日共)500円	
	15(月)	18:30	盛岡演劇鑑賞会 第423回例会 劇団文化座「母」	トーサイクラシックホール岩手 中ホール	会員限定	盛岡演劇鑑賞会事務局 ☎019-622-5073
10	20(土)	14:00	*劇団このゆびとまれ 番外公演②	盛岡劇場タウンホール	前売 700円	代表 佐々木 ☎090-5830-8961
		19:00	「Bouquet」		当日 900円	
	21(日)	14:00				
	20(土)	14:00	*海原の蛙ども 第3回公演	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	一般 1,800円	工藤 ☎080-1662-7746
		19:00	「ふわふわ、しゅー、ぽっ」		U22 1,500円 高校生以下 500円	
	21(日)	11:00				
11	4 (土)	15:00	イッセー尾形の右往沙翁劇場 番外編	盛岡劇場メインホール	前売一般 5,500円	盛岡劇場 ☎019-622-2258
	5 (日)	15:00	「銀河鉄道に乗ってin盛岡2025」		U25 2,700円 当日各500円増 mFriends料金(前売のみ)4,950円	
	10(金)	19:30	架空の劇団第28回公演	盛岡劇場タウンホール	一般前売 1,800円	倉持 ☎090-1933-5980
	11(土)	14:00	「スケッチブック		当日 2,300円	
		19:00	一供養絵をめぐる物語ー」		ペア(Webのみ)3,000円 大学生(前売・当日共)1,000円 高校生以下(前売・当日共)500円	
	12(日)	11:00				
12	10(金)	19:30	*トラブルカフェシアター	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売一般 2,000円	遠藤 ☎080-1827-9467
	11(土)	11:00	第27回&25周年記念公演		大学生/専門学校生 1,500円	
		14:30	「NO TROUBLE, NO LIFE」		高校生以下 1,000円	
		18:00	SideA「アパートメントの殺人」		当日各500円増	
	12(日)	11:00	10日19:30, 11日14:30, 12日11:00			
		14:30	SideB「THE Unusual Suspects」			
1	25(土)	14:00	*劇団結 第14回公演	盛岡劇場タウンホール	一般(前売・当日共) 1,000円	鬼澤 ☎090-3754-9006
		19:00	「ぼっここのいる家」		小学生以下無料	
2	26(日)	14:00				
11	1 (土)	14:00	*スワンボート第5回公演	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売一般 1,800円	制作部 ☎080-6042-3100
		18:00	「生まれ出ずる者皆天使」		U24 1,300円	
2	2 (日)	13:00			当日各700円増 早割(9/20~30まで) 一般 1,300円 U24 800円	



インタラクティブ

▼感劇地図の編集委員になってみて驚いた。ほんのわずかな人数で原稿依頼から情報収集、発送作業まで行っている。みなさん結構いい年齢。老眼で見えないと言いながら数をかぞえ、せっせと封筒の糊付けをしている姿を見て、私が感じたのは感謝と感動と危機感。そしてこれから頑張らねばという使命感。

▼はじめて本紙を手にしたのは中学生の頃。習い事として盛岡子ども劇団CATSきゃあに通っていた頃だったと記憶している。

▼高校生になり、演劇部に入った私にとって本紙は「明星」に並ぶ雑誌となる(違)。透明で硬いクリアファイルにアイドルの写真をコラージュして作るオリジナル下敷きが流行る中、私も負けじと感劇地図の切り抜きでオリジナル下敷きを作っていた。特にお気に入りのS藤H樹氏の切り抜きは生徒手帳に貼り付けていた。事実のみを思い出して書いていますが、相当まずい高校生ですね。

▼本誌が果たしてきた役割は大きい。SNSもまだ存在していなかった時代、個別のアンケートではなく公の場でテキストで評される場。あの時、あの人に数行だけど褒めてもらえたおかげで舞台に立ち続けていられるという実際の話を聞いたことがある。かくいう私も、コントに出はじめた頃にとてもないコメディエンスが出てきたと書いてもらって励まされた側の人間である。逆に関わった作品が酷評されると落ち込みはしないが、次こ

そとは違った方面からも励みになった。皆さんにとって、感劇地図はどんな存在ですか？(八木)

▼本紙記事に対する感想、反論、劇評に対する批評、他、さまざまな意見を募集しております。本紙に挟み込んであるアンケート用紙を気軽にお使い下さい。

▼本通信は、地元の演劇公演の劇評を中心とした演劇通信です。盛岡劇場、市民文化ホール(マリオス)、キャラホール、姫神ホール、いわてアートサポートセンターの各受付・ロビーに置いてあるほか、地元劇団の公演でも無料配布されます。

また、個人スポンサー(2口以上)になっていただいた方には1年間無料送付いたします。

●投稿・読者アンケート・感劇地図送付申し込みは
〒020-0873 岩手県盛岡市松尾町3-1
盛岡劇場気付 感劇地図編集委員会
FAX 019-622-1910
電子メール: kangekimap@gmail.com

◆感劇地図編集委員
三浦 隆(代表) くらもちひろゆき(代表代行)
落合 昭彦 佐藤 浄 三浦 貴之
鈴木 優子 福士 史江 八木 絵里



月	日	開演	公演団体／公演名	会場	チケット	問合せ先
5	11(日)	10:30 14:30	令和7年度 盛岡三高演劇部引退公演 「死んで花実を咲かす」	トーサイクラシックホール岩手 中ホール	入場無料	盛岡三高演劇部 ☎019-661-1736
	15(木)	15:00	平泳ぎ本店／Hiraoyogi Co. 第9回公演 盛岡試演会 「英雄たち」	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	一般 1,500円 U-25 1,000円 高校生以下無料	平泳ぎ本店／Hiraoyogi Co. (担当: 松本) ☎090-7860-5600 ✉hiraoyogihonten@gmail.com
	24(土) 25(日)	16:30 15:30	盛岡市立高等学校 演劇部独立公演2025	盛岡劇場タウンホール	入場無料	盛岡市立高校演劇部 ☎019-658-0491
6	12(木) 13(金)	20:00 19:30	*もりげき八時の芝居小屋第193回公演 劇団ちりちりプロデュース 藤原瑞基一人芝居 「世界名作劇場の孤独」	盛岡劇場タウンホール	一般前売 1,000円 当日 1,200円 m-Friends料金(前売のみ)800円 共通回数券(枚綴り)5,000円	盛岡劇場 ☎019-622-2258
	14(土) 15(日)	13:30 18:00 10:30 13:30	*寺山修司生誕90年記念企画 この世のことならず 二の替わり 「お月さまが消える夢」	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売一般 1,500円 学生 1,000円 当日各500円増 未就学児入場不可	寺山修司演劇祭実行委員会事務局 ☎019-656-8145 (平日9~18時)
	15(日)	14:00	地雷探知犬ニーナ	花巻市文化会館 大ホール	一般前売 2,500円 当日 3,000円 高校生(当日同料金)500円 中学生以下無料	花巻市文化会館 ☎0198-24-6511
	28(土) 29(日)	19:00 11:00	SEI KOROSAWA第1回公演 「朗読劇〜宮澤賢治作 よだかの星/ ゼロ弾きのゴーシュ/月夜のでんしんぼしら」	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	一般前売 1,000円 当日 1,500円	いわてアートサポートセンター ☎019-604-9020
	6(日)	14:00	松竹創業百三十周年 「花嫁〜娘からの花束〜」	一関文化センター 大ホール	S席 6,000円 A席 5,000円 当日各500円増	一関文化センター ☎0191-21-2121
	12(土) 13(日)	13:00 18:00 14:00	*岩手大学劇団かつば2025夏期公演 「回析発光体 Re:ヒト」	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売大人 1,500円 学生 1,000円 高校生以下 500円 大人・学生 当日200円増	制作 ☎070-3129-6577
7	20(日)	14:00	わらび座イーハトーブシアター 「真昼の星めぐり」the Musical	花巻市文化会館 大ホール	S席 デジ 外アートシート 7,000円	一般社団法人わらび座 公演事業部 ☎0187-44-3332
	26(土) 27(日)	14:00 17:00 11:00 14:00	*黒猫舎15周年記念公演(第16回) 子どもと楽しむ宮沢賢治童話 「イーハトーブからやってきた三つのお話」 演出:風の又三郎/いちようの美/度十公演林	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	小学生以上前売1,000円 当日1,500円	菅原 ☎090-2978-0791
	26(土) 27(日)	14:00 19:00 11:00 15:00	*「園井恵子 すずらんから沙羅双樹まで」 参加公演 演劇ユニットせのび Bookmark [page.4] 赤鬼	プラザおでって3F おでってホール	一般前売 2,000円 当日 2,500円 学生(前売・当日共)1,000円	藤原 ☎080-6042-3100
	26(土) 27(日)	14:00 19:00 11:00 15:00	*第35回もりげき祭・演劇フェスティバル 参加公演 演劇ユニットせのび Bookmark [page.4] 赤鬼	盛岡劇場タウンホール	前売一般 2,500円 U25 1,500円 高校生以下(要予約)500円 遠方割 1,500円 苗券 1,500円 当日各500円増	新沼 ☎080-1693-2742 ✉engeki.senobi@gmail.com
	28(月)	18:30	盛岡演劇鑑賞会 第422回例会 文学座「昭和虞美人草」	トーサイクラシックホール岩手 中ホール	会員限定	盛岡演劇鑑賞会事務局 ☎019-622-5073
	2(土) 3(日)	14:00 18:30 14:00	*第35回もりげき祭演劇フェスティバル参加作品 ボーイズドレッシング#11 「もらえる女」	盛岡劇場タウンホール	前売一般 1,900円 U25&学生 1,300円 高校生以下500円 プレミアムボックスシート5,000円 当日各500円増	制作部 ☎090-9745-5123
	23(土) 24(日)	14:00 14:00	戦後80年企画 朗読劇「園井恵子と櫻隊」	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売一般 1,500円 学生 1,000円 当日一般 1,800円 学生 1,200円 未就学児 無料	いわてアートサポートセンター ☎019-604-9020
8	24(日)	14:00 17:00	劇団バーネット*1回目 「夏の終わりが煙る」	盛岡劇場・河南公民館 ミニホール	入場無料	劇団バーネット ☎090-3984-3592 ✉barnett-mrok@gmail.com
	30(土)	11:00 15:00 19:00	*演劇ユニット74×片目で立体視 ×着ぐるみのドレープ 「遠く佇む」	盛岡劇場・河南公民館 ミニホール	一般 1,000円 学生 500円	演劇ユニット74 Xアカウント @unit74nashi
	2(火) 3(水)	18:30 14:00	文化鑑賞会クオレ第82回例会 劇団四季ミュージカル「赤毛のアン」	盛岡市民文化ホール 大ホール	会員限定	文化鑑賞会クオレ事務局 ☎019-603-8299
9	6(土)	11:00 15:00 19:00				

上記表内の[*]印は盛岡市民演劇賞の対象作品です

2025.5.11~2025.11.2